

新潟県立新津工業高等学校同窓会

平成 20 年度(第 2 回)生徒海外派遣研修・報告書



平成 20 年 10 月

新潟県立新津工業高等学校同窓会

生徒海外派遣研修(推進会議)

ごあいさつ

常日頃より、新潟県立新津工業高等学校に関係する皆様にはお健やかに過ごしのことと拝察いたします。

さて、このたび実施いたしました「第二回生徒海外派遣研修」の報告書が出来上がりましたので、是非ご覧いただきたいと存じます。

この研修制度は、平成 18 年に行われた新津工業高等学校電気科閉科記念事業において、多くの皆様からの御浄財が基金として運営され、第一回目の平成 19 年 8 月中国上海市近郊 4 泊 5 日に引き続き、今回は第二回目の韓国ソウル市近郊 2 泊 3 日で体験してきた研修内容となっています。

研修に参加された、熱意あふれるチャレンジ精神旺盛な 6 名の生徒諸君と、一緒に随行いただいた熊倉稔後援会長をはじめ 6 名の皆様、大変ご苦労様でした。

どうか皆様、メモリアルとしてこの報告書をご活用いただければ幸いです。

最後に、新津工業高等学校を愛する皆様からのご支援に対し、感謝と御礼を申し上げて、報告書の発行に際しての御挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

平成 20 年 9 月吉日

新潟県立新津工業高等学校同窓会 会長

生徒海外派遣研修推進会議 議長

平成 20 年度 第二回韓国海外研修 団長 岡 村 茂

目 次

	ページ
1、参加者氏名	3
2、日程及び訪問企業	4
3、韓国はこんな国	5
4、旅程詳細	6
5、研修生の感想	1 8
6、生徒海外派遣研修を終えて	2 0

1、参加者氏名

< 研修生 6 名 >

和泉 裕也	3 年 1 組 (機械科)
佐藤 大地	3 年 1 組 (機械科)
土田 哲也	3 年 1 組 (機械科)
光井 駿	3 年 1 組 (機械科)
若林 翔太	3 年 1 組 (機械科)
中林 孝之	3 年 2 組 (機械システム科)

< 随行者 7 名 > 石黒氏は韓国入国後、訪問企業で待機

団長 岡村 茂	(推進会議議長・同窓会会長)
熊倉 稔	(推進会議オブザーバー・後援会会長)
高塚 則明	(推進会議委員・同窓会副会長)
長谷川 貢	(推進会議委員・同窓会副会長)
石黒 利幸	(推進会議委員・同窓会副会長)
昆 昌喜	(推進会議事務局次長・同窓会書記次長)
斎藤 靖	(推進会議事務局長・同窓会書記長)

2、 研修・見学先及び日程

ご旅行日程		平成19年8月24日 作成					
団体名称： 新津工業高校同窓会「第二回・海外視察研修」 ご旅行方面： 韓国（ソウル市及び仁川市、安山市） ご旅行期間： 平成20年8月21日（木）～23日（土） 2泊3日間 ご旅行人員： 12名（学生6名+大人6名）							
日時	日（曜日）	地名	現地時刻	日 程	朝	昼	夕
1	8月21日 （木）	新潟空港 新潟空港発 仁川空港着	7:20 9:30 11:45 13:00 13:20 14:30 18:30 20:00	新潟空港集合（日本旅行カウンター前） チケット発券後、特別室にて出発式 空路（KE764便）韓国・ソウルへ 仁川空港到着 （昼食） 自由の橋の見学 オドゥサン統一展望台の見学 （夕食） Nソウルタワーの見学後ホテルへ ＜ソウル泊＞		機	○ ○
2	8月22日 （金）		7:30 9:30 10:30 12:00 13:30 15:30 19:00 20:30	（朝食） 新潟県ソウル事務所からの説明会（宿泊ホテル会議室） ホテル出発 （昼食） 仁川市 三友システム視察 安山市 株式会社MCTECH視察 （夕食） 通訳・現地関係者を含め反省会后ホテルへ ＜ソウル泊＞			○ ○ ○
3	8月23日 （土）	仁川空港発 新潟空港着	7:30 9:30 10:30 11:00 13:30 14:30 15:30 17:55 19:55	（朝食） ホテル出発 ロッテデパートでの買い物 清溪川の復元見学 景福宮の見学 国立民俗博物館の見学 （昼食） 食品雑貨店での買い物 仁川空港到着 空路（KE763便）帰国の途へ 到着後、新潟空港で解散			○ ○ 機
		＜宿泊先＞		イビスアンバサダー明洞 ソウル市中区明洞1街59-5 TEL.02-6361-8888			
		＜訪問先他＞		新潟県ソウル事務所 ソウル市中区乙支路1街188-3 プレジデントホテル901号 TEL.02-773-3161 担当/坂井所長、伊藤次長様			
				三友システム（仁川市） 仁川広域市南洞区コジャン洞720-11 南東公団141-11 TEL.032-814-4064			
				株式会社MCTECH（安山市） 1BL-48LT ,Banwol Industrial Complex 729-9,Wonsi-Dong, Danwon-Gu,Ansan-si ,Gyeonggi-do,Korea,425-851 TEL.031-492-3963			

3、韓国ってこんな国

正式国名は大韓民国（だいかんみんこく）。朝鮮半島の軍事境界線（38 度線）を挟み朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）との冷戦下で誕生した分断国家。朝鮮民族国家としての統一
は国民の悲願とされる。

日本海を挟んで日本と、黄海を挟んで中華人民共和国と国境を接しており、情報技術産業、自動車産業などを中心に世界で 13 番目の経済力をもつが、現在は中国の躍進や 1997 年のアジア通貨危機、内需不振などにより経済は低迷傾向にあり、国民の間の経済的な貧富の格差が社会問題となりつつある。

国旗...太極旗と呼ばれ

中央にある赤と青の模様が「太極」で、青が陰、赤が陽の意味。周囲の 4 つの線は、天（左上）・地（右下）・火（左下）・水（右上）を表す。



面積...約 10 万km²（日本の約 26%）

人口...約 5,000 万人（日本の約 39%）

人口の約半分が、世界で 5 番目に大きい大都市圏であるソウル都市圏（ソウル・仁川周辺）のある京畿道で生活。



気候...日本と同じ温帯（四季もあり、北部は寒暑の差が大きく、南部は温かな気候）

通貨...単位は W（ウォン）

紙幣 3 種（10,000W・5,000W・1,000W）

貨幣 5 種（500W・100W・50W・10W・1W）

現在 1W はほとんど流通していない

来年には、新紙幣の 50,000W と 100,000W が発行されるとのこと。



言語...ハングル 文章の基本的な構造は日本語と似ている。

政治...大統領を元首とする立憲民主共和制。三権分立制度を採用。国会は一院制。

4、旅程詳細

< 第 1 日目 > 8 月 21 日 (木) / 天候 ・ 晴れ

集合 ・ 出発

新潟空港に午前 7 時 20 分集合。

平日の早朝集合の中、研修生は親御さんと一緒に到着。村田学校長、佐藤 PTA 会長もお見送りに来てくださる。飛行機への搭乗手続きの後、空港内 2 階特別室にて全員が集合し、海外派遣研修の出発式を行う。

斎藤事務局長の司会のうちに、村田学校長、佐藤 PTA 会長。随行者を代表して熊倉後援会長からそれぞれ激励の言葉をいただいた。

続いて、岡村団長が力強い決意表明とお見送りのお礼を述べ、その後、今回の研修に関する注意事項等が説明され出発式を終了。その後、出国審査を受け搭乗待合室へと向かった。



村田学校長からの激励

午前 9 時、アナウンスがありいよいよ搭乗。ゲートを通り研修生と随行者の 13 名は眠い目をこすりながらも笑顔で、KOREAN AIR (大韓航空) KE764 便の機内に向かった。

午前 9 時 30 分定刻に離陸。

高度も十分に上がり水平飛行に入る。20 分ほどすると綺麗な乗務員 (CA = キャビンアテンダント) が機内食 (うな丼 ?) とドリンクを配り、みんなで早速味わっていた。



出発式での研修生と随行者

飛行機は、新潟空港離陸後、鳥取県上空で大きく右へ旋回。時折気流の乱れから機体の揺れも感じるが、11 時 10 分頃アナウンスで着陸態勢に入る知らせ。飛行時間 2 時間。あっという間に韓国仁川国際空港に到着。



韓国仁川空港へ到着



入国審査までは遠く「動く歩道」完備

さすがアジアのハブ空港として整備された仁川空港。新潟空港と比べものにならないほど大きな空港。研修生たちも緊張した面持ちで入国審査を行い無事韓国へ入国。

空港出口で今回お世話になる通訳の(株)韓飛旅行社・国際観光部 朱兌卿(ジユテギョン)さんが待っていた。

専用バスに乗車

石黒さんとは 2 日目の視察先(株式会社 MCTECH)に向かうので空港でお別れ。

残る 12 名は。通訳の朱さんと共に専用バスに乗車。個人事業のレンタカーで中型マイクロバス。車内は綺麗に装飾しており、少し派手かなとは思ったが、他のバスと間違えることは絶対にないので安心。

車内では、朱さんから事前に用意していただいた韓国ウォンに換金。

12 名全員がとりあえず 1 万円づつを両替。それぞれが 9,300W(ウォン)を受取り、昼食会場に到着するまでに韓国滞在に当たっての注意事項や日程の説明などが行われた。



無事に韓国へ入国(専用バス前)



専用バス内 通訳・朱さん(左女性)

「自由の橋」見学

「自由の橋」は、ソウルから北に向かって「自由路(ジャユロ)」を進んだところにあります。板門店の手前としては、許可なく自由に入出りできる最後の地点です。一般の車ではここから先に向かうことはできず、そばに臨津(イムジン)駅があり、ここから列車に乗ると非武装地帯(DMZ)のすぐ手前にある都羅山(トラサン)駅まで行くことができます。



さまざまな願いが書いてある前で



破壊された橋

現在の橋は、朝鮮戦争の際に破壊された橋の横に建設されたもので、臨津江(イムジン川)に架かる唯一の橋です。1953年、休戦協定が締結された後、戦争捕虜 13,000 人が帰還する時、この橋を「自由万歳」と叫びながら渡ったことから「自由の橋」と呼ばれています。

「オドゥサン統一展望台」見学

「烏頭山(オドゥサン)統一展望台」からは、南北朝鮮分断の実状を望むことができる。

標高 118 メートルの高地にあり、1992 年 9 月 8 日、世界で唯一の冷戦の遺産である南北朝鮮分断の悲劇的な現実を理解してもらうとともに、自由と平和を尊重し統一実現のため、韓国人の切なる願いを込めて設立された。



対岸は「北朝鮮」木が非常に少ない



施設内には、展望台のほか北朝鮮の生活や学校が実感できる展示物も数多い

目の前を長さ 3.2 キロの壬辰江(イムジン川)が南北を流れ、対岸は木も少ない北朝鮮の村。高倍率望遠鏡でのぞく事もできますが、往来できないという悲しいところです。

館内には北朝鮮の生活用具などの展示もあり、興味深いものも多く北朝鮮の現状を時間で見る場所でした。

「N ソウルタワー」見学



1980 年一般公開され、多くの観光客が集まる「N ソウルタワー」。

2005 年末にリニューアルし、カフェやレストランも増設、フードコートから高級グルメまで楽しめるようになり、デートスポットとして大人気。

タワー自体の高さは 236m だが、標高 265m の南山(ナムサン)の上にあるので、500m もの高さ。

高速エレベータで上る展望台からはソウルが一望でき、夜には香港の 100 万ドルの夜景にも匹敵するほどの景色を楽しむことができる。

展望台からの夜景

夜はライトアップされる N ソウルタワー

< 第 2 日目 > 8 月 22 日 (金) / 天候・雨

「新潟県ソウル事務所」からの説明会

宿泊ホテル 19 階にある会議室を使用し、新潟県ソウル事務所から坂井所長（新潟県庁から出向）伊藤次長（新潟市役所から出向）をお招きし、資料を基に韓国の基本的な情報や経済・労働状況などをお聞きした。

経済では、高度成長期に経済政策を推進するために育成された財閥だが、通貨危機の構造要因にもなったことから大宇(テウ)財閥は崩壊。

しかし、いまだに財閥の経済支配が強く、現在 4 大財閥と言われるサムスン、現代、LG、SK が経済だけでなく政治的にも大きな影響力を持っているとの事。

労働環境では、失業率が平均 3.5%と高くないが、青年層（15～29 歳）が 7.9%と非常に高く、若くて仕事を持たない人が多く問題視されている。



坂井所長(左)と伊藤次長(右)



新潟県ソウル事務所からの説明会



質疑応答後の記念撮影

説明後は、質疑応答も行われ、徴兵制度（27 歳まで 2 年間）や労働条件・賃金などの質問もあり、興味深いお話がいろいろお聞きすることができ、最後に「大人になってから再度韓国に来てもっといろいろ見て体験をしてほしい」と坂井所長からお言葉をいただき、記念撮影をして終了した。

仁川市「三友システム」企業視察

ソウル中心部からバスで約 1 時間。空港がある仁川市の三友システムさんを訪問し、社長から説明をいただきながら、工場見学を行った。

三友システムは、1996 年創業で広大な工業団地の中に敷地 880 坪、工場建坪 200 坪の規模で、従業員は 20 人と小規模ではあるが、社長・常務・経理・デザイナーの 4 名は全員家族で、他の製造従業員は外国労働者が多かった。



三友システム工場



真剣に説明を聞く研修生たち

工場内には金型製造・プラスチック射出の機械などを設備し、キャスターの製造・卸販売や、さまざまなオリジナルデザインの椅子を製造。インターネット販売で事業拡大している企業。



大型のプラスチック射出成型機



事務所にて椅子デザインデータを見学

50 歳を越えている社長の趣味はトライアスロンで、社長室には仕事をする道具より、体を鍛えるマシンなども多く置かれ、数多くのメダルや表彰状。活躍を報道する雑誌や新聞記事などが飾られていた。

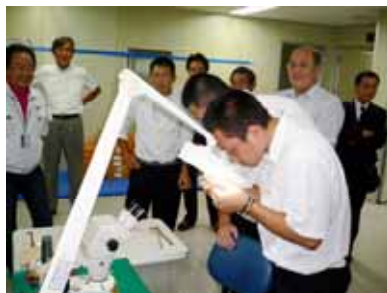
安山市「株式会社 MCTECH」企業視察

仁川市からバスで約 30 分移動。隣接する安山市にある株式会社 MCTECH を訪問。先日、空港で分かれた石黒さんが出迎えてくれた。

安山市は新潟と似ており、緑多く稲作もさかんなようで落ち着く景色が広がる地域。その中にある工業団地内に会社はあり、2000 年創業で従業員は 50 人。韓国の他にも中国・瀋陽にも工場を持つ。



株式会社 MCTECK 本社・工場



担当者からの説明後、工場内を見学。不良品の発見方法なども興味深く、質疑応答も行われた。



社長(2列目センター)と一緒に記念撮影

工場内には精密機械が数多く設備しており、精密な電子回路基盤を製造。韓国国内の企業は勿論、海外の仕事も数多くこなしている。

製造はもとより、設計から検査まで徹底して行われており、不良品への対応も完璧。社長も「競争力ある商品開発を通じて顧客から信頼を受ける企業でありたい」と世界的にもトップクラスの技術を持っている元気のある企業でした。

夏休み中ということで、工場は休業中であったが、日本語を話す会社スタッフから工程毎にわかりやすく丁寧に説明を受け、研修生も大変興味を持って視察が行われた。

< 第 3 日目 > 8 月 23 日 (土) / 天候・曇のち晴

「復元された清溪川」見学



昔はこの上に高架橋が

もともと、清溪川（チョンゲチョン）は、ソウル中心部を流れる全長約 8km の河川として親しまれていた。古くは李氏朝鮮時代より、商業・文化の要所として栄えてきたが、1960 年以降、生活排水による水質汚染などが深刻となり、清溪川周辺の環境も主要道路や高層ビルの建設ラッシュなどで大きく変化。このことから、1970 年代後半には、道路の拡張などにも伴い、清溪川は地中に埋められることとなり、その姿を地上から消えた。



地中から復活した市民憩いの川

急激な経済成長や環境の変化により、地下に埋められた清溪川でしたが、結局、2002 年「清溪川の復元」という公約で当選した李明博（イ・ミョンパク）ソウル市長（現・大統領）の意向により復元と整備が実現した。

一度地中に埋められた河川を再び地上に蘇らせる前例を見ない工事は約 3,900 億ウォン（390 億円）を事業費として、約 3 年かけて復元。2005 年 10 月に完成。

週末や休日には家族連れやカップルなど多くの人で賑わうスポットで、地元の人も運動や憩い、娯楽の場として親しまれている川です。



復元された清溪川で記念撮影

「景福宮」見学

景福宮(キョンボックン)は、ソウル中心部。興礼門と神武門にはさまれた約 42 万㎡。市内の 5 大王宮中で最も規模が大きく、建築美に優れた宮殿。1395 年に創建。現在は国の史跡に指定。李氏朝鮮時代(1392~1910)の正宮で開国時に建てられ、王が生活をしながら、臣下と政治の議論を交わしていたそうです。



興礼門の前では憲兵の交代式が見られる



左から「勤政殿」「勤政殿の内部」「慶会楼」などを朱さんの説明にて見学

宮内には勤政殿(クンジョンジョン・国宝)、慶会楼(キョンフェル・国宝)、慈慶殿(チャギョンジョン・宝物)など数多くの文化財(国宝 7 点、重要文化財 11 点)があります。



当時の衣装を着ての記念撮影

景福宮は、壬辰倭乱(文禄・慶長の役、1592 年)によって全焼。その後 273 年間廃墟として放置されたが、1867 年、高宗(コジョン)時代に再建。しかし 1895 年、宮内で高宗の皇后である明成皇后殺害事件がおき、王が居所を移してからは、主人を失った空き王宮となり、1910 年に国権を失い日本によって正殿の前に総督府庁舎を建てられるなどして多くの建物が破損。昔の姿をほぼ失うことになる。こうして大部分の建物はなくなったが、正殿や楼閣などの主要な建築物がまだ残っており、朝鮮の正宮の姿を確認することができます。

「国立民俗博物館」見学

景福宮の中にあり、韓国の文化を調査・研究・展示・収集・保存するだけでなく、企画展示・特設展示・学術発表会・外国人のための民俗教室などといった教育プログラムにも力を入れ、韓国の国民に伝統文化を正しく理解させるだけでなく、韓国伝統文化の国際化に向けても努力し続けている。



景福宮内にある「国立民俗博物館全景」



第一展示室「韓民族の生活史」

3つの常設展示室から成り立っており、第1展示館は韓民族生活史。第2展示館は生業・工芸・衣食住。第3展示室は韓国人の人生とそれぞれテーマ別に分かれており、ほかに子供たちのための「子供博物館」などもありました。

中でも民俗博物館は、歴史的な流れや伝統的な生活様式など具体的な要素が詳しく説明・展示されているのでとても参考になりました。



第二展示室「生業・工芸・衣食住」



第三展示室「韓国人の一生」

韓国仁川空港から帰国

3 日間お世話になった朱さんともお別れです。バスの中、食事の時、視察先、見学先で、韓国について、沢山のことを教えていただきました。本当にお世話になりました。



お世話になった朱さんとの記念撮影 疲れていた研修生たちも最後まで体調を壊さず頑張りました

最後に記念撮影をして、一行は出国審査へ。無事に待合室へ向かい搭乗。13 名は疲れきった表情ながらも、KOREAN AIR (大韓航空) KE763 便、17 時 55 分定刻に離陸。2 日前と同じような機内食を味わい、19 時 55 分に無事新潟空港に到着。

入国審査を経て、学校長と親御さんがお迎えにきていて安心した様子。最後に岡村団長からご挨拶をいただき、それぞれが自宅に帰宅していきました。みなさんお疲れ様でした。

< その他 >

宿泊先ホテル

今回の韓国ソウルでは、一番の繁華街の明洞 (ミョンドン) 中心に宿泊。出来て間もない綺麗なシティホテルで、最上階の 19 階がロビー。朝食会場も 19 階で見晴らし抜群。

目の前には、ロッテデパートとロッテホテルもあり、裏には屋台が出る若者の街。ソウル市役所も近く抜群のロケーションでした。



イビスアンバサダー明洞

韓国での食事

今回の 2 泊 3 日の韓国において、ホテルでの朝食（2 回）と機内食（2 回）を除き、5 回の韓国食を楽しむことが出来ました。ホテルの朝食もバイキング形式で、好きなものが何十種類も並び、ご飯やパン。納豆、味噌汁まで用意されていました。



1 日目の昼食会場にて「本場のビビンバ」を堪能

研修生・随行者ともに食事は大変楽しみな研修？となり「ビビンバ」に始まり、「プルコギ」「カルビ」の焼肉や、「海鮮チヂミ」、「韓国風シャブシャブ」、「冷麺」、「温麺」、「生たこ刺身」などなど、どれも美味しく、副食につく「キムチ」や「ナムル」などは種類が多く「無料」ということもあり、量的にも満足できたのではないのでしょうか。



辛いものが苦手な人への配慮もあり、現地の人たちの「食」を実体験できたことも今回の「海外派遣研修」の大きな内容になったと感じました。

5、研修生の感想

和泉 裕也 3年1組(機械科)

この度の韓国派遣研修は、僕にとって人生初の海外という不安があった研修でした。

韓国では、北朝鮮との停戦ライン付近の自由の橋や統一展望台、国立民俗博物館、景福宮などを訪れ、韓国の文化や歴史にふれました。また、三友システムという企業では、パーツを材料から作っていたり、株式会社 MCTECH では日本のケータイにも使われている基板や配線などを作っていました。このような企業視察を通じて韓国独自の技術や作業工程を見てきました。韓国も日本と同じぐらいの工業技術力が発達していることを知るよい機会になりました。

.....

佐藤 大地 3年1組(機械科)

私は今回で韓国は2回目でした。1回目は小学生のとき行ったのですが、高校生になってからの2回目の韓国は1回目よりも感じるものが違いました。そして、ただ感じるだけではなく、今回は韓国を理解することができました。全てではありませんが、韓国の食文化や韓国の歴史、そして韓国の工業の技術など、よく学ぶことができたので、とても良かったと思っています。

今回韓国に行き、とてもいい刺激になりました。韓国に行き受けたこの刺激を今後から自分の糧として、これからのさまざまな困難にも対応していきたいと思います。

.....

土田 哲也 3年1組(機械科)

自分は、初めて海外に行くことができ、人生の中でも貴重な体験をする事ができました。

行く前は、初めてだったので少し不安もありましたが、同窓会の方々が温かく迎えてくれたので楽しみながら研修する事ができ、とてもありがたく思いました。

いざ韓国へ着いてみると、高層マンションが多く、道路も片側4車線の所を見て、その時、初めて海外に着いたという実感が湧きました。

今までは、海外なんか行かなくてもいいと思っていましたが、今回の研修でいろんな国に行ってみたいと思いました。大変お世話になりました。

光井 駿 3年1組(機械科)

8月中旬、海外研修生として初めて韓国へ行きました。韓国での出来事は、全てが新鮮でとても魅力的でした。

先進企業を訪れた時は、実際に行っている作業を生で見ました。中でも印象的だったのが一生懸命働く日本人やアメリカ人などといった国外の方でした。私は、同じ国外の人が慣れない土地で一生懸命働く方々に感動しました。韓国には、韓国しかない素晴らしいものがたくさんありました。こういうものを作るには、一人一人が努力をし皆助けあっていかなければならないんだなと実感しました。私も韓国の方々を見習って頑張っていきたいと思います。

.....

若林 翔太 3年1組(機械科)

海外研修ということで、自分たちは韓国にいつてきました。

自分は初めての外国だったので、驚いたことがたくさんありました。自分の韓国のイメージは「発展途上の国」ぐらいにしか思っていませんでした。しかし、実際にソウル市内を見てみるとイメージが180度変わりました。高層ビルやマンションが立ち並び日本のようでした。また、大型デパートや、有名ブランドなどがたくさんありました。

企業見学でも、日本に負けないぐらい大きな規模の企業もありました。韓国は日本と肩を並べるぐらいに発展してきました。日本も負けないように、頑張ってください。

.....

中林 孝之 3年2組(機械システム科)

僕が韓国で感じた事は、町並みが日本とほとんど変わらなかった事です。日本よりも戦争の影響があるというのに、町並みが変わらないということは、すさまじい努力があったからだと思います。そのことにすごさを感じました。しかし、北朝鮮との国境近くでは、まだ厳重な警備がされていました。実際、僕らの乗ってるバスに戦車が横ぎりました。あんなに発展した国がいまだ戦争と隣り合わせなことになりました。

次に感じたことは、料理が美味しかったことです。キムチは日本のものより辛かったけど、とても食べやすかったです。

6、生徒海外派遣研修を終えて

推進会議事務局長 齋 藤 靖
(同窓会書記長・20 回電子科卒)

平成 18 年の電気科閉科式典の柱として行われた「生徒海外派遣研修基金」創設に伴い集めていただいた資金にて、今回も海外研修が行われたことに際し、多大なご協力をいただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

昨年の第一回目となる中国上海市近郊に続き、第二回目は、韓国ソウル市近郊 2 泊 3 日というスケジュールで、8 月 21 日(木)～23 日(土)に生徒研修生 6 名と引率者 7 名の計 13 名で出かけてまいりました。

主な研修先や詳細については、この報告書の掲載に代えさせていただきますが、希望を持って参加してくれた生徒 6 名には、日本以外で観光も含め工場視察など貴重な体験ができたものと感じておりますし、これが将来何らかの形で役立っていただければと思います。

最後に、今回の「生徒海外派遣研修」実施にあたり、ご苦労いただいた学校、PTA、後援会、同窓会の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。